

賀茂地域で輝く大人紹介事業「賀茂のカリスマ」

# カモスマ

地域に魅力を感じ、地域にこだわって活躍している大人を紹介



Uターン  
カモスマ #1  
民宿勝五郎  
土屋 尊司さん

Uターン  
カモスマ #2  
藤井わさび園  
藤井幸光さん 千代美さん

Uターン  
カモスマ #3  
スペイン料理 MINORIKAWA  
御法川輝雄さん

Uターン  
カモスマ #4  
NEED U  
板橋隼平さん

Uターン  
カモスマ #5  
農林水産物直売所 湯の花  
渡辺純平さん

Uターン  
カモスマ #6  
居宅介護支援  
事業所 愛菜花  
小池美帆さん

Uターン  
カモスマ #7  
おやつのお店  
秘密のぬけあな  
矢島彩香さん

Uターン  
カモスマ #8  
三余農園  
土屋 人さん

自分のやりたい仕事  
を生き生きとしている

地域の資源に着目し、  
これを活かした仕事をしている

## 賀茂地域で輝く大人紹介事業「賀茂のカリスマ」(カモスマ)

賀茂のカリスマ(カモスマ)とは、**賀茂地域で「自分のやりたい仕事をいきいきとしている」「地域の資源を活かした仕事をしている」「地域に魅力を感じ、地域にこだわって活躍している」方々を地域の人たちへ紹介する事業**です。

今回は第3弾として、「**Uターン**」に焦点を当てた、カモスマを紹介します。カモスマの経験や想いを知ってもらい、**進学等で一度は地元を離れても、将来的に賀茂地域へ帰ってきたいと思えるきっかけ**になれば幸いです。

この冊子は、そんなカモスマを紹介するために、伊豆新聞下田版に掲載した記事をまとめたものです。併せて伊豆新聞等に掲載した令和4年度賀茂地域住民アンケート結果も掲載しています。

また、インタビューの様子を静岡県公式YouTubeチャンネルで発信しています。ぜひ記事とあわせて動画もご覧ください。

## 目次

令和4年度賀茂地域住民アンケート結果	1
伊豆新聞下田版「Uターンカモスマ」	
1 土屋 尊司さん(大阪→下田)	2
2 藤井 幸光さん・千代美さん(静岡→西伊豆)	3
3 御法川 輝雄さん(スペイン→下田)	4
4 板橋 隼平さん(東京→下田)	5
5 渡辺 純平さん(神奈川→南伊豆)	6
6 小池 美帆さん(伊東→東伊豆)	7
7 矢島 彩香さん(東京→河津)	8
8 土屋 人さん(沼津→松崎)	9

協力：伊豆新聞下田支社・賀茂管内ケーブルテレビ局

発行元：静岡県賀茂地域局

〒415-0037 静岡県下田市敷根 765-15 賀茂危機管理庁舎

TEL：0558-24-2202

FAX：0665-24-2205

# 令和4年度賀茂地域住民アンケート結果

令和5年5月27日（土）掲載

😊 静岡県賀茂地域局からのお知らせです。

## 『賀茂の子』が育つ地域づくりに向けて!

※賀茂地域の1市5町と静岡県賀茂地域局で構成する「賀茂地域広域連携会議」では、『賀茂の子』づくりなど賀茂地域の様々な課題解決のための取り組みを進めています。

『賀茂の子』とは  
“賀茂はひとつ”の  
想いのもと、  
ふるさとに誇りを持ち、  
地域の発展に  
貢献できる人。

### ◎賀茂地域の学生・住民の皆さんを対象にアンケートを行いました。

#### 学生アンケート

対象 ●賀茂地域の小6・中3・高3の児童・生徒  
●調査期間:2022.9/1~9/15 回答数:1,027人

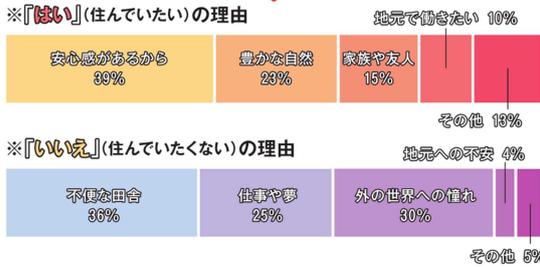
#### 住民アンケート

対象 ●賀茂地域の全住民  
●調査期間:2022.12/1~12/28 回答数:1,021人

#### Q 今から15年後、あなたは賀茂地域に住んでいたいですか?



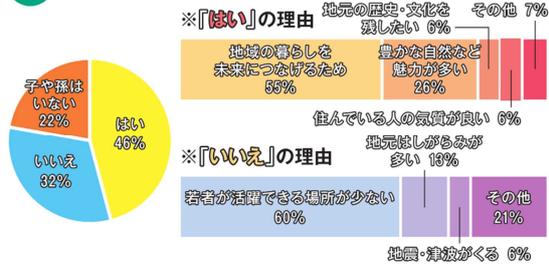
●小・中・高全体で「はい」が28%。前回調査の32%と比べて4ポイントの減少。調査開始から3期連続の減少となった。



#### Q 将来的にたくさんの人に地元に住んでほしいと思いますか?



#### Q あなたのお子さんやお孫さんに将来的に地元に住んでほしいと思いますか?



### ◎静岡県では、『賀茂の子』を育てるこんな取り組みをしています。

- 高校生のための観光講座** 今年度開催 6/17-7/15  
高校生向けに観光をテーマとした出前講座を開催(県大)
- 未来を切り拓くDream授業・賀茂版** 今年度開催 8/3-4  
賀茂地域1市5町の教育委員会と連携、賀茂地域にゆかりのある講師による講義
- アカデミックサマースクール** 今年度開催 8/5  
高校生と大学生が講義やフィールドワークを通じて地域の魅力を再発見する(県大)
- しずおか寺子屋 IN 賀茂** 今年度開催 8/7-8  
賀茂地域の小中学生に高校生・大学生と一緒に学習支援をする(ともに交流)

※詳細は下記の連絡先までお問合せください。

■アンケートの詳しい結果等は、賀茂地域局のホームページをご覧ください。

お問合せ 静岡県賀茂地域局 ☎0558-24-2202

### ◎賀茂のカリスマ(カモスマ)~賀茂地域で輝く大人

#### 賀茂地域で

- 自分のやりたい仕事をいきいきとしている
- 地域の資源を生かした仕事をしている
- 地域に魅力を感じ、地域にこだわって活躍している  
…人々を地元住民へ紹介しています!

新聞記事の掲載  
(2020年8月~10月)  
●12人を紹介。冊子として県HPに公開中

映像コンテンツの配信  
●5~10分程度の動画で紹介  
●県YouTubeチャンネル  
●管内ケーブルテレビ

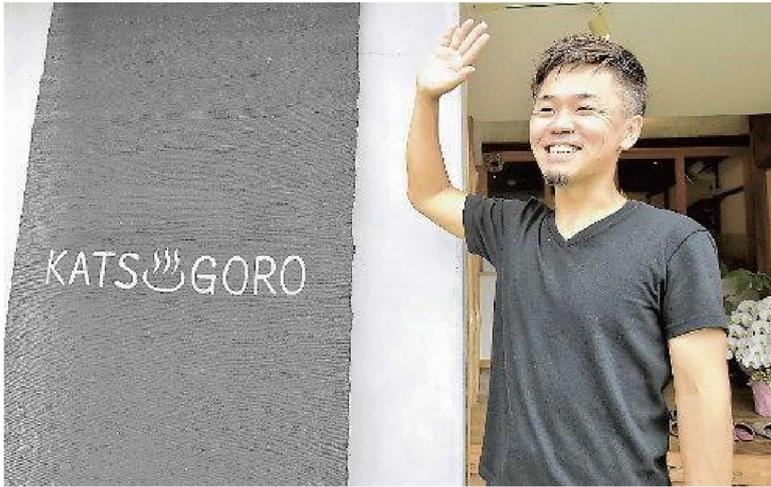


アンケートの詳しい結果はこちら→



賀茂地域住民の意識調査結果

令和5年3月



宿泊客を笑顔で見送る土屋さん



下田市白浜で祖父母が営んでいた民宿に生まれ育ち、一度は古里を離れたものの2017年にUターン。営業をやめていた民宿をリノベーションして、復

活させ、素泊まりの宿としてリピーターが定着する。イラストレーターとしても地域で活躍し、伊豆の自然を満喫しながら家族4人で暮らす。

下田北高（現・下田高）を卒業後、三重大学工学部への進学を機に家を出た。当時は古里を離れることへのさみしさはなく、むしろ外への憧れの方が強かつ

もある民宿が祖母の高齢化などを理由に14年に廃業し、「普通の家」になってしまったことへのさみしさだった。

民宿の手伝いや宿泊客と一緒に遊んだことなど、幼少期の楽しかった思い出が帰省する間も増え、Uターンしたことに後悔はない。賀茂地区の若者が首都圏へ流出する現状に「小さな生活圏だけでなく、外の世界も知ることとはとても大切なことだ」と思うとし、「そ

# 祖父母の民宿改修し「復活」

民宿勝五郎

つちや たかし  
**土屋 尊司** さん(40)

下田市

就職活動では建築業関係を目指す中で、関心のある企業が関東圏に集中していたことから地元へ戻る選択はなかった。24歳で施設の内装などをデザインする総合ディスプレイ業に就き、やりがいや魅力を感じながら楽しく仕事を精を出していた。Uターンのきっかけになったのは、実家での初は反対されたが、説

伊豆新聞×賀茂管内ケーブルテレビ×賀茂地域局共同事業

動画はこちら→





ワサビの出荷準備をする藤井さん夫婦  
西伊豆町宇久須

西伊豆町でワサビの栽培、販売やグランピング施設「わさびビレッジ」を展開する藤井わさび園を運営する藤井幸光さん・千代美さん夫婦。20年以上放置

されていたワサビ沢を復活させた。父親のワサビ沢ナ施設やウッドボイラ1での湯沸かしの設置なども構想しているという。

飲料メーカーに勤める幸光さんに合わせ、2人は転勤生活を送っていた。工場勤務の中

め、苦労することもあったという。少量高品質で朝採れにこだわった無農薬のワサビは全国各地から注文があり、同町のふるさと納税の返礼品にも選ばれている。アンテナを高く立てれば周囲に転がっている仕事のチャンスを見ることができる。新しい仕事を始めるとき、もしも困ったことがあったら、できる限り力になるから相談に来てほしい」と若い世代にエールを送る。

# ワサビ沢を復活 事業拡大

## 藤井わさび園

ふじい 藤井 幸光さん (55)  
ちよみ 千代美さん (56)  
西伊豆町

ていた。工場勤務の中、苦労することもあったという。少量高品質で朝採れにこだわった無農薬のワサビは全国各地から注文があり、同町のふるさと納税の返礼品にも選ばれている。アンテナを高く立てれば周囲に転がっている仕事のチャンスを見ることができる。新しい仕事を始めるとき、もしも困ったことがあったら、できる限り力になるから相談に来てほしい」と若い世代にエールを送る。

伊豆新聞×賀茂管内ケーブルテレビ×賀茂地域局共同事業

動画はこちら→



こだわりのワインのボトルを見つめる御法川さん



下田市では珍しいスペイン料理レストランの店主。本場スペインの三つ星レストランなどで修業を積んだ料理の腕は確かで、県外からその味を求めて訪

レストラン「MINORIKAWA」

み のり かわ てる お  
**御法川 輝雄** さん(44)  
下田市

# 地元食材豊富で環境抜群

れるリピーターも多い。須崎出身。幼少期に両親が営む居酒屋を手伝ったり、料理する背中を間近で見たりしていたこともあり、高校卒業後は料理の道に進むことを決めた。しかし、それまでは野球に打ち込んでいたため、料理の経験はほぼゼロ。卒業後に地元の下田プリンスホテルの約10年間腕を磨いた後、本場スペインに渡る決意をした。「スペインではスタッフが100人もいる所で店を持つのが夢だった」  
こだわりのワイン。地産類以上のワイン。地産地消を心掛け、ジビエ料理も地元産の肉を使

の洋食部門に勤務するも、料理人としてのスタートがうまく切れずにいた。1年で同ホテルを辞め、東京都の栄養士専門学校へ進んだ。「野球部の時に栄養についての関心が深まり、学びたい気持ちがあった。外に出て、他の料理の世界も見てみたかった」  
スペイン料理に興味を持ったのは、専門学のように自然のある場とを決意。「スペインもそんなに遠くない」  
大きなレストランで働いた。言葉に苦労したが、文化に触れ、本物を味わえたことが大きかった。約1年間の修業を終えて帰国後、両親の居酒屋を借りてランチ営業を始めた。その間に伊豆急下田駅近くの喫茶店の店舗が空き、2011年にそこへ自分の店をオープンすることになった。行った場所に行ってみてほしい。世界とアドバイスを送る。

伊豆新聞×賀茂管内ケーブルテレビ×賀茂地域局共同事業

動画はこちら→









ケアプラン作成などに当たる小池さん＝東伊豆町稲取



生まれ育った東伊豆町稲取で居宅介護支援事業所「愛菜花（あいさいか）」を営み、高齢者が住み慣れた場所で自立した生活を営めるように支援する。

### 居宅介護支援事業所「愛菜花」

こいけ みほ  
**小池 美帆** さん(49)  
東伊豆町

## 高齢者の自立支えたい

自営業の両親は多忙で、子どもの頃は祖父と過ごす時間が長かった。「よく一緒に畑や海に行った。祖父の弟や妹にもかわいがってもらい、高齢者との関

わりが自然にあった」と振り返る。祖父の入院生活を支えた看護師の姿に憧れ、高校卒業後、国立伊東温泉病院（当時）付属の看護学校に進

員の資格も取得した。帰郷し近くの病院に数年勤めた後、家庭生活と仕事の両立を考慮し、事業所を立ち上げた。「この地域で自分

生きと過ごせる場を提供し、介護する家族の相談の場も設けて悩みを聞いていきたい」と気持ちを新たに自身の経験から地域

み、伊東市で暮らすようになった。卒業後は同病院で働き、結婚、出産した。院内保育園は3歳までしか預けられず、子育てと夜勤のある仕事の両立に悩んだ末、両親の支援を受けるために帰郷を決断した。年末に「家に帰りたい」と望む入院患者の言葉が胸に残り、患者が在宅で過ごす手伝いができるように介護支援専門員が多い。高齢者が生き

訪問看護ステーションを併設したが、自身の体調不良や看護の担い手不足もあり今春、訪問看護を休止し、事業を縮小した。その結果、ライフスタイルの見直しにつながり、地域課題への関心も高まったという。「引きこもってしまう高齢者が増えている。自分

訪問看護ステーションを併設したが、自身の体調不良や看護の担い手不足もあり今春、訪問看護を休止し、事業を縮小した。その結果、ライフスタイルの見直しにつながり、地域課題への関心も高まったという。「引きこもってしまう高齢者が増えている。自分

訪問看護ステーションを併設したが、自身の体調不良や看護の担い手不足もあり今春、訪問看護を休止し、事業を縮小した。その結果、ライフスタイルの見直しにつながり、地域課題への関心も高まったという。「引きこもってしまう高齢者が増えている。自分

伊豆新聞×賀茂管内ケーブルテレビ×賀茂地域局共同事業

動画はこちら→





こだわりの詰まった店で自慢の菓子を  
紹介する矢島さん（河津町梨本）



河津町梨本の山間部、自然豊かな泉奥原で育ち、シイタケ農家の祖父が使っていた作業場を改装して洋菓子店「おやつのお店 秘密のぬけあな」を営む。

おやつのお店 秘密のぬけあな

矢島 彩香 さん(36)  
河津町

# 子育てしながら夢形に

「子どもの頃、お菓子を食べたくても近くに店がなく、自分で作るしかなかった。母親もお菓子を手作りしてくれて、自分も自然とお菓子作りが趣味になっ  
た」と振り返る。高校卒業後、都会への憧れもあり町を離れた。都内のカフェやイタリア料理店などで働き、接客や調理技術を磨いた。飲食業にやり  
思ってもらえるこだわりの商品を作ろうと考  
えた。店もフランスの田舎をイメージした内装にし、インテリアや小物をそろえた。理想が詰まった店は  
族の時間を大切にしながら働く中で、子育てが一段落したら店の周囲の田んぼに草花を植え、ピクニックスペースにしたいーなどと思  
い描く。「空気が澄ん

がいを感じ「自分の店を持つ」という夢を抱いた。2021年10月にオープン。Uターン前に始めていたネット販売やイベント出店から人気  
結婚、出産し、待機児童の問題もあり、都会で働きながら子育てする厳しさに直面し、自分の夢を実現するた  
めに、地元に戻るという選択をした。国道414号から店まで、狭い道を数キロ上る。開業に当たり、立地を逆手にとり買いに来たいと  
ふるさどに戻り、家で  
で気持ちがいい所だと改めて知ることができた」と笑う。  
「ずっと同じ場所に住んでいるとその土地の良さが分かりづら  
い。子どもたちに一度は外に出ていろいろな体験をしてほしい」と願う。「たくさん失敗をして経験を積んで、賀茂地域に戻ってくるこ  
とになったとき、地域に新しい風を入れてく  
れたら楽しいと思う」

伊豆新聞×賀茂管内ケーブルテレビ×賀茂地域局共同事業

動画はこちら→





カカオを手入れする土屋さん＝松崎町那賀



松崎町発祥の「栄久ぼんかん」を栽培している三余農園の5代目。かんきつ類をはじめ、米や柿、キウイなども育てており、温泉を活用したカカオ豆の

栽培といった新たな事業にも挑戦している。同町に生まれ、小さな頃から農園で農業を手伝ったり、趣味で野菜を育てたりしてきた。「町から出て都

会に行ってみよう」という憧れから、同町に進学した。大学は沼津市で生物工学を学

び、食品会社に就職し

た。業に楽しみながら取り

組んでいる。1月から5月まではかんきつ類の収穫と出荷、5月に田植え、夏にかんきつ類の管理をして秋に米を収穫といったサイクルで一年を過ごす。農家で一年を過ごす。農家は、さまざまな課題解決や自分のやりたい事業に楽しみながら取り

# 温泉活用しカカオ豆栽培

## 三余農園

つちや  
**土屋**

じん  
**人**さん(34)

松崎町

働き始めて3年ほど過ぎた頃、家業の担い手について兄弟で話し合った。「100年以上続く家業を途切れさせてはいけない」と自身を継ぐことを決め、県農林技術研究所果樹研究センターで1年間勉強して松崎に戻った。都会での生活を「人間的成長」に思っていた。物、情報が手に入りやすかった」と振り返り「賀茂だと物や情報

組んでいる。1月から5月まではかんきつ類の収穫と出荷、5月に田植え、夏にかんきつ類の管理をして秋に米を収穫といったサイクルで一年を過ごす。農家は、さまざまな課題解決や自分のやりたい事業に楽しみながら取り

現在には家に併設したビニールハウスで育てている。「桜葉や桑葉などの町の特産品は香りが強いので、チョコレートと合わせられたら面白い」と未来を見据える。

賀茂地域の若者へは「失敗を恐れないでやりたい」と思ったことに挑戦し、夢に挑戦することに慣れていってほしい」とメッセージを送る。

伊豆新聞×賀茂管内ケーブルテレビ×賀茂地域局共同事業

動画はこちら→

